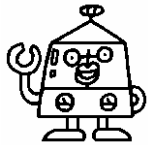


お花見のサクラには、実はならないの



お店のサクランボよりずうっと小さい、うれると黒くなる実がなることが多いよ。実は小鳥しか食べないね。

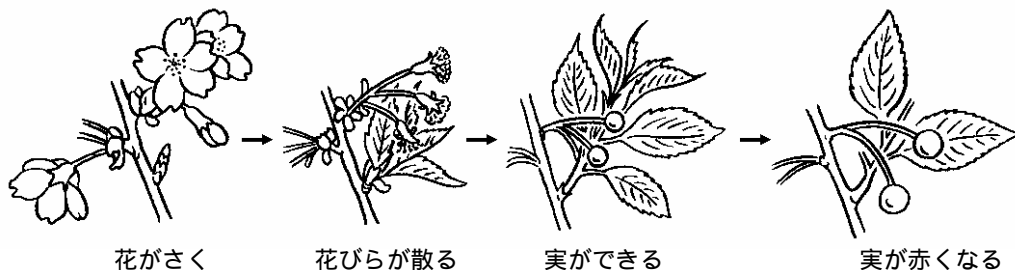
花を見て楽しむサクラには、実がならないものもある

お花見のサクラの代表は、ソメイヨシノやヤマザクラなどです。これらの花がさいた後、1か月ぐらいしてから木を見上げると、サクランボのようにえの長い、小さな実がなっています（種類によって、実がならないサクラも多い）。でも、実は小さいまま、うれると赤くなってきて、最後はこいむらさき色や黒色になります。おいしいものではありませんので、ふつうは、食べません。鳥が食べるだけです。

サクラの花びらは、5まいですが、花びらがなんまいも重なった、やえざきのサクラの種類がいくつかあります。これらの花は、花を楽しむために改良されてきていて、おしべやめしべになる部分が花びらに変化しているため、実がなりません。

サクランボがなるのは、オウトウという木

つぶが大きいおいしいサクランボがなる木は、サクラではなく、オウトウとよばれる木です。オウトウは、ソメイヨシノなどより早い時期に、サクラとよく似た花をさかせます。そして、6～7月ごろ実がなります。



ソメイヨシノの、花から実までの変化